

真実に目を向ける： 未来への選択を、二本松市から考える
第3回 放射線防護の民主化フォーラム2025

福島での甲状腺がんをどう考えるのか？

評価部会の5巡目までのまとめの問題点

～福島県・検討委・評価部会への要請活動紹介中心に～

藤岡毅

大阪経済法科大学客員教授

（福島原発事故による甲状腺被ばくの真相を明らかにする会代表）

2025年11月8日 二本松市・市民交流センター

評価部会まとめに関するこれまでの経緯(1)

- 2013年11月 「甲状腺検査評価部会」設置。第1回部会開催
部会長: 清水一雄氏(日本医科大教授)就任
- 2015年 3月 第6回評価部会で「甲状腺検査に関する中間とりまとめ」発表 対象先行検査
→「数十倍の発見率」「被ばくによる過剰発生か過剰診断のいずれかが考えられる」「放射線の影響とは考えにくい」
- 2015年10月 津田敏秀・岡山大教授ら外国人特派員協会でEarly Release警告
→ 原発事故後の福島の子どもの甲状腺がん発症率は20～50倍
- 2016年 1月 国際環境疫学会ISEEは日本政府と福島県に書簡を送付
→ 調査の必要性和調査に協力するという趣旨。政府や国内メディアは無視
- 2016年 5月 津田教授らの論文 *Epidemiology* に掲載
→ 外部比較(全国の甲状腺がん有病率との比較)と内部比較(福島県内参照地区との有病率オッズ比比較)によって事故後4年間で甲状腺がんの過剰発生示す

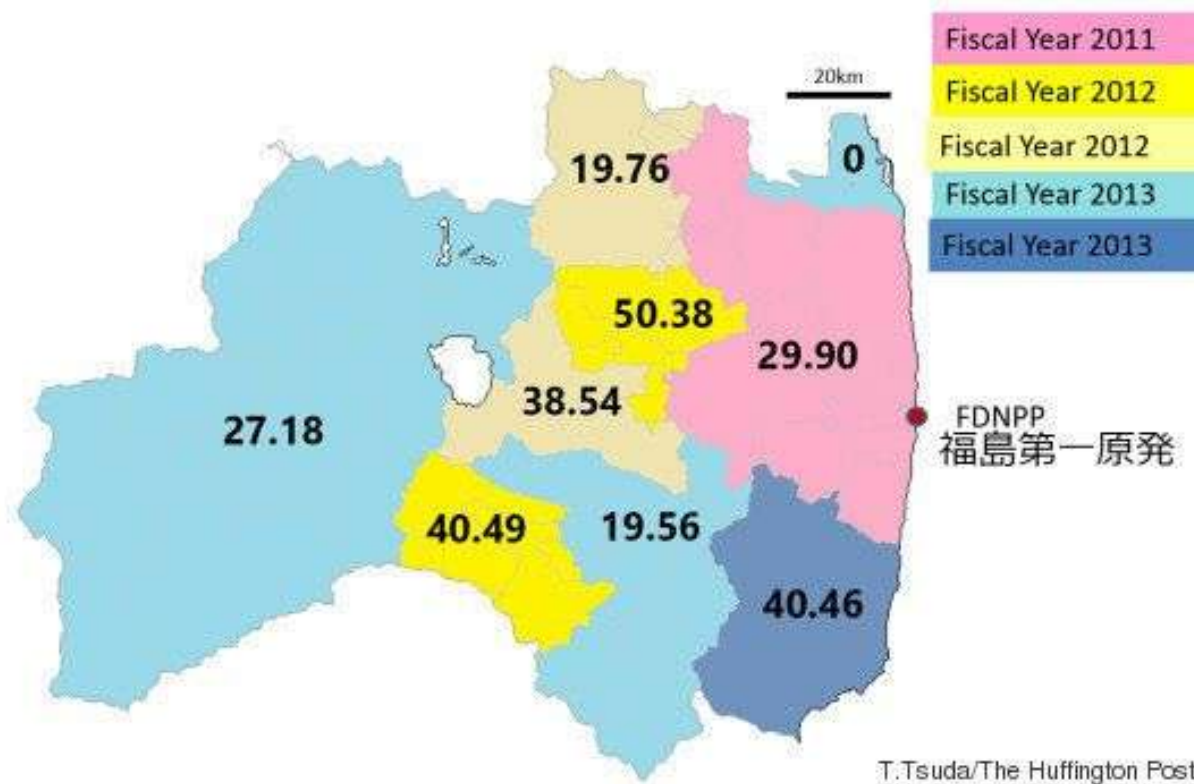
★疫学による因果関係の推論としては放射線影響でほぼ決着がついた！

参考 「福島の子供の甲状腺がん発症率は20～50倍」 津田敏秀氏ら論文で指摘



岡山大学大学院の津田敏秀教授(生命環境学・環境疫学)らの研究グループがまとめ、国際環境疫学会が発行する医学雑誌 *Epidemiology*(インターネット版)で発表(外国特派員協会でアーリー・リリース警告 2015年10月)

国際環境疫学会ISEEは2016年1月に日本政府や福島県に、調査の必要性和、調査に協力するという書簡を出したが、政府や国内メディアは無視



https://www.huffingtonpost.jp/2015/10/08/tsuda-toshihide-fukushima-pandemic_n_8262682.html

評価部会まとめに関するこれまでの経緯(2)

2巡目も多発なのでスクリーニング効果はなく、過剰診断は手術した臨床医が明確に否定した

- 2017年11月 第8回「甲状腺検査評価部会」

部会長：**鈴木元氏**（国際医療福祉大クリニック院長）就任

- 2019年 6月 第13回「評価部会」で2回目結果に対する部会まとめ 対象2巡目

→依然として**数十倍高く、地域差明確に**。But、**研究デザインを変え**、UNSCEAR2013の推計甲状腺吸収線量を使い、「**甲状腺がんと放射線被ばくの間に関連は認められない**」と結論

- **2019年 7月** 第35回「検討委員会」で部会まとめをめぐって激論。But「**承認**」

→ **鈴木元部会長**：**単純な地域の比較というやり方を変えまして**、UNSCEARの推定甲状腺吸収線量というものを使って、**線量反応関係があるかどうか**というような検定を行って・・・

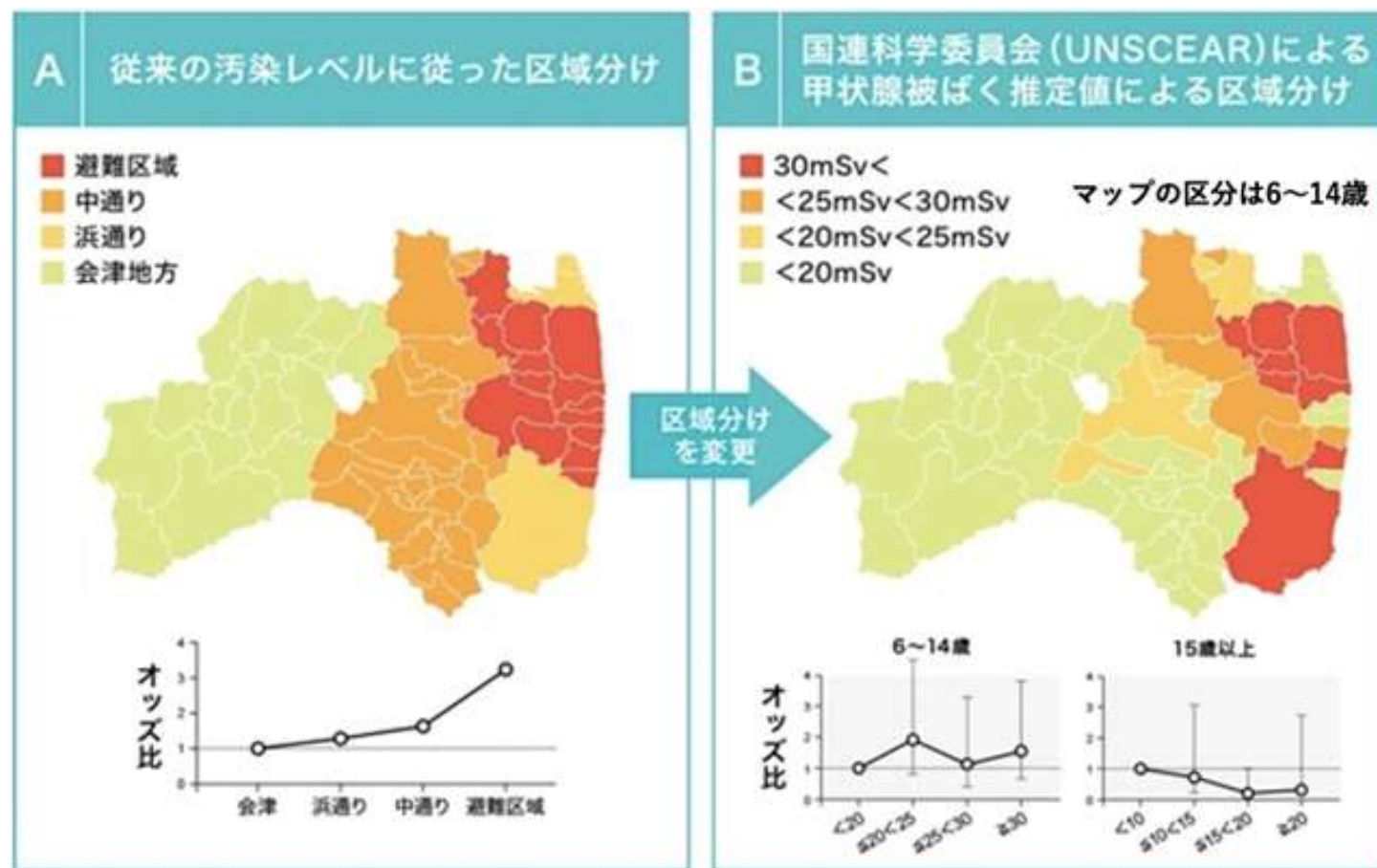
→ **成井香苗 委員**：**親委員会の方でこれまで決めていた研究デザインを踏襲して、それに伴って研究されているということのはずだと思います。・・・会津が14.4人で 避難区域の13市町村が53.1人ということは3.7倍もの差がある・・・私はすごく疑問です。**

「検討委員会としては了承する」とした

参考

2巡目検査に対する「評価部会まとめ」の 区域分けを汚染レベルの違いによるものから変更して 発生率と線量との相関を隠蔽

2巡目を1巡目
と同じ区域わけ
で評価した場合
は相関あり



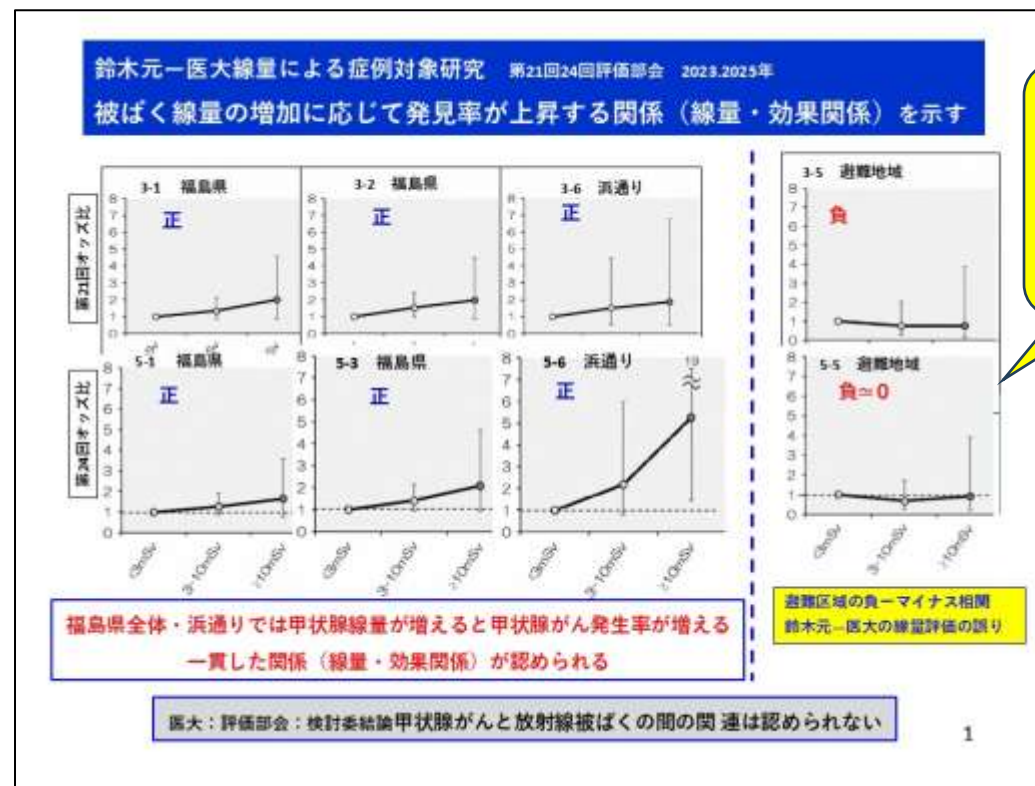
評価部会まとめに関するこれまでの経緯(3)

- 2023年7月 第21回評価部会で
「検査4回目までの結果に対する部会
まとめ(案)」提出 対象:1~4巡目

「個人毎に被ばく線量をシミュレーションし、それを使った**症例対照研究**を追加」によって「現時点で考えられる最良の解析ができた」とし、「**一貫した関係(線量・効果関係)がないことを示すことができた**」ことを根拠に「**先行検査から検査4回目までにおいて、甲状腺がんと放射線被ばくの間に関連は認められない**」と結論づけた。



甲状腺等価線量の計算の実態は不明



「一貫した関係がないことを示すことができた」と何か誇らげ?

内部被ばく線量と外部被ばく線量の合算値(mSv; 甲状腺等価線量)を使用。内部被ばく線量は 2011年3月12日から 3月25日までの詳細版行動調査票に基づき計算された、原発事故後 14 日間の水道水からの甲状腺等価線量+吸入被ばくによる甲状腺等価線量として算出し、外部被ばく線量は基本調査で評価された線量(実効線量)に甲状腺等価線量補 10 正係数 1.1 を掛けた値として算出した。

「部会まとめ」の結論を根拠づける避難地域の甲状腺等価線量をどのように計算したのか、考え方が書かれているだけで**具体的なデータは不明**である。「明らかにする会」はその公開を要請した。

「明らかにする会」の取り組み(1)

「部会まとめ」を批判し、データ公開と「まとめ」のやり直し要請

2025年2月7日 全市町村の甲状腺等価線量の公開を評価部会・検討委員会・県に要請

→「部会まとめの結論に使った市町村別の甲状腺等価線量の公開を要請する」

- 同年 2月8日 鈴木部会長の回答:「県民健康調査課に申請を」、「データは論文発表になっている」として鈴木氏論文(2022)添付。「私は協力しません」
- 同 3月 4日 福島医大・県民健康管理センター回答:「県から委託を受けている」ので「お答えする立場にはありません」
- 同 4月 4日 福島県にデータ公開を求め県政情報センターに公文書開示請求
→「吸入被ばくによる甲状腺等価線量値の算出に使われたデータがわかる文書
- 同 4月22日 県民健康調査課・非開示決定(「取得・作成しておらず、保有しておりません」)
- 同 5月14日 福島県、検討委、評価部会に公開できないなら「部会まとめ」撤回を！要請
- 同 5月16日 午前:明らかにする会・記者レク /午後:第55回検討委員会(同記者会見で論争)
- 同 6月 2日 福島県立医大に公文書開示請求
- 同 6月17日 県立医大・非開示決定(「取得・作成しておらず、保有しておりません」)

「明らかにする会」の取り組み(2)

6/31県民健康調査課に申し入れ(要望書提出)と県庁記者クラブでの記者会見

・【要請事項】

1. 評価部会として甲状腺等価線量の公表にまず取り組んでください
2. 線量公表が出来ないのであれば、「部会まとめ」を撤回してください
3. 線量を公表するまでは、甲状腺等価線量を使った解析結果を発表しないでください
4. 検討委員会は「部会まとめ」の承認をとりやめてください

プレス・リリース: ≪ 中通り通過の放射性プルームを隠したまま 400 名の子ども甲状腺がん多発が 被曝によらないと結論づけた 2023 年「部会まとめ」を撤回し、根拠に使用したデータを公開し、結論にいたる過程が明示された「部会まとめ」の作成を求めます ≫



2025年6月31日、福島県庁にて、89名の賛同者名簿を添えて県民健康調査課部(上田浩一課長)に提出

写真撮影：飛田晋秀氏

記者会見には10数名参加。福島民友、福島民報、OurPlanet-TV, i女のしんぶん、等が報道



「明らかにする会」の取り組み(3)

7月4日第25回甲状腺検査評価部会で**検査5回目までの「部会まとめ」**発表
「**甲状腺がんと放射線被ばくの間に関連**があるとは認められなかった」

・ 2025年7月14日 「**県民健康調査**」検討委員会に対し新たな要請書を提出

【要請事項】

1. 2025年7月4日第25回甲状腺検査評価部会で提出された「甲状腺検査先行検査から本格検査(検査5回目)までの結果に対する部会まとめ(案)」を**検討委員会は承認しないでください**。
2. 重富検討委員会座長は第55回検討委員会後の記者会見での発言の通り、「検討委員会委員」「評価部会部会員」と**外部の科学者・医師との討論の機会**を設けてください。

・ 2025年7月23日 検討委員会前記者会見 合同**記者レクチャー開催**

～問題だらけの「部会まとめ(案)」第56回「県民健康調査検討委員会」に向けて～ (民主化フォーラム、UNSCEAR検証ネットも参加)

→**福島県庁記者クラブ**に留まらず**厚生労働省、外国人特派員協会の記者クラブ**にも働きかけ

・ 2025年7月25日 第56回「**県民健康調査**」検討委員会／**記者会見**(普段より多数参加)

→重富座長「ここで**承認**するとかしないはない」「まとめは**放射線と関係がない**とは言っていない」「様々な意見を**県に届ける**のが役割」

→記者会見での委員の発言「部会報告自体には異論はない。ただ**元となるデータが正しいかどうかは私たちにはわからない**」

5巡目までの「部会まとめ」批判に関して
7月23日記者レクの「総論」を紹介し、3月15日－
16日に中通りを通過した放射性プルームを無視
している問題に限定して若干解説します。

プレスリリース： 甲状腺がんの被ばく起因を否定した2025年7月4日「部会まとめ(案)」
その**重大欠陥を指摘する専門家ら**によるオンライン**記者レク**
第52回「県民健康調査」検討委員会に「部会まとめ」不承認を求めます
15:00～ 記者会見 (2025. 7. 23, オンライン開催)

司会：佐藤嘉幸(筑波大学准教授、UNSCEAR検証ネットワーク世話人) **オンラインホスト：**るる(明らかにする会)

・**出席者：** 藤岡 毅(大阪経済法科大学客員教授、明らかにする会代表)

本行 忠志(大阪大学名誉教授、医師、放射線生物学)

加藤 聡子(元短大教授、理学博士)

濱岡 豊(慶應義塾大学教授、応用統計学、放射線防護の民主化フォーラム・コーディネータ)

・**会見の要点**

- ① 「部会まとめ」の不承認を検討委員会に求める理由
- ② 「不正確な被ばく線量推定値に基づいた甲状腺がんに関する検討からは、何の結論も導き出せない」
- ③ 「鈴木元線量批判: 鈴木元甲状腺等価線量に基づく症例対照研究は被ばく影響を示している」
- ④ 評価部会の分析の問題点と不適切なチェルノブイリとの比較一公開質問状のポイント解説

・**主催：** 福島原発事故による甲状腺被ばくの真相を明らかにする会／放射線防護の民主化フォーラム
／UNSCEAR 2020/2021報告書検証ネットワーク

「部会まとめ」の不承認を検討委員会に求める理由

1と3について解説

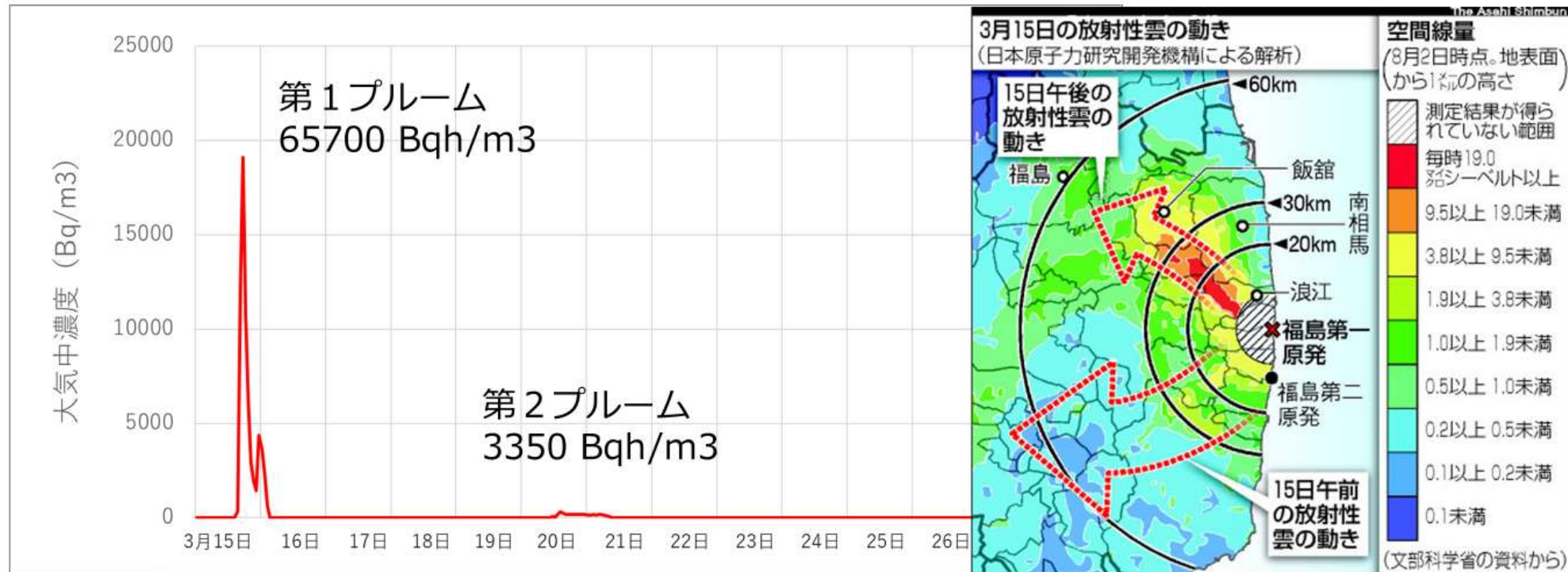
総論 (後日の修正含む)

藤岡 毅

1. 3月15～16日に中通りを襲った**最大の放射性プルームの無視**
寺田論文のシミュレーションを補正なしで使った「部会まとめ」
2. 検査対象年齢、検査時期の異なるチェルノブイリと福島との甲状腺検査の不合理的な比較に基づく放射線起因の否定。**作為的誘導**
3. 全データを使った「症例対照研究」が線量・効果関係を示しているのに、主として2地域に分散避難した避難地域の分析結果のみに基づいて線量・効果関係を否定するのは**乱暴な論理ではないか**
4. 甲状腺がん多発(事実)を線量推定値(仮定)で否定する**科学論理転倒**
5. 部会長の個人論文を基に「部会まとめ」を作成する**利益相反**

全市町村の推計甲状腺等価線量の公開要求に至った背景としての根本的な疑問？

3月15日-16日に福島市などの中通り地域を最大の
放射性プルームが襲ったことは明らかである

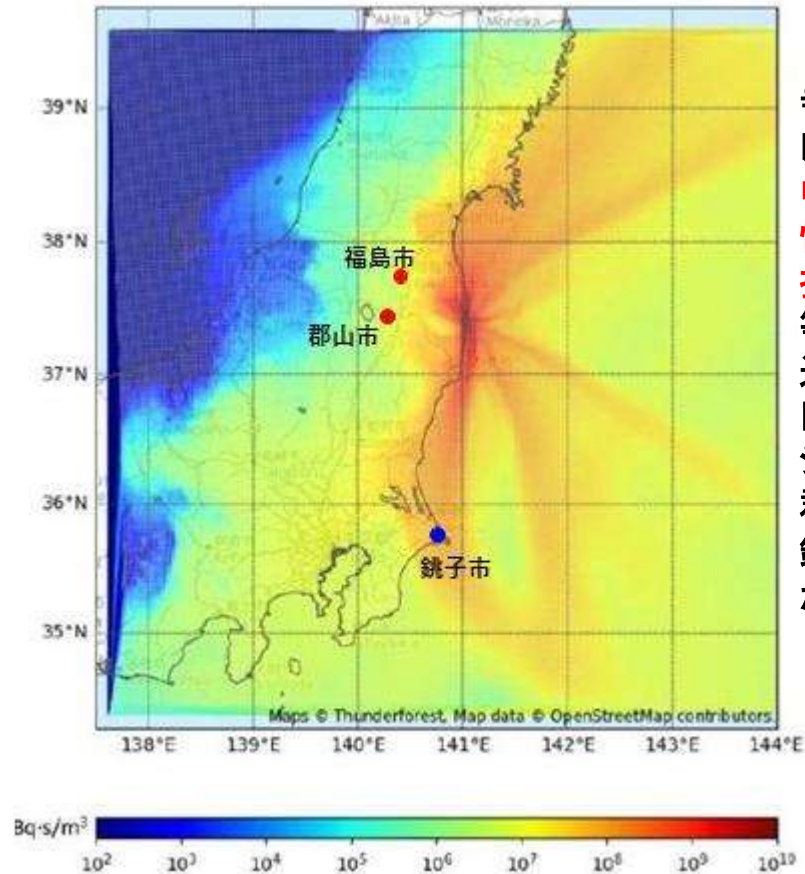


福島市中心部に位置する紅葉山のモニタリング・ポストのデータを用いて推定したヨウ素¹³¹の大気中濃度の時間変化(2023年3月3日に行われた福島大学シンポジウムでの黒川眞一氏の発表資料中の図)

2011年9月8日朝日新聞DIGITALニュースより

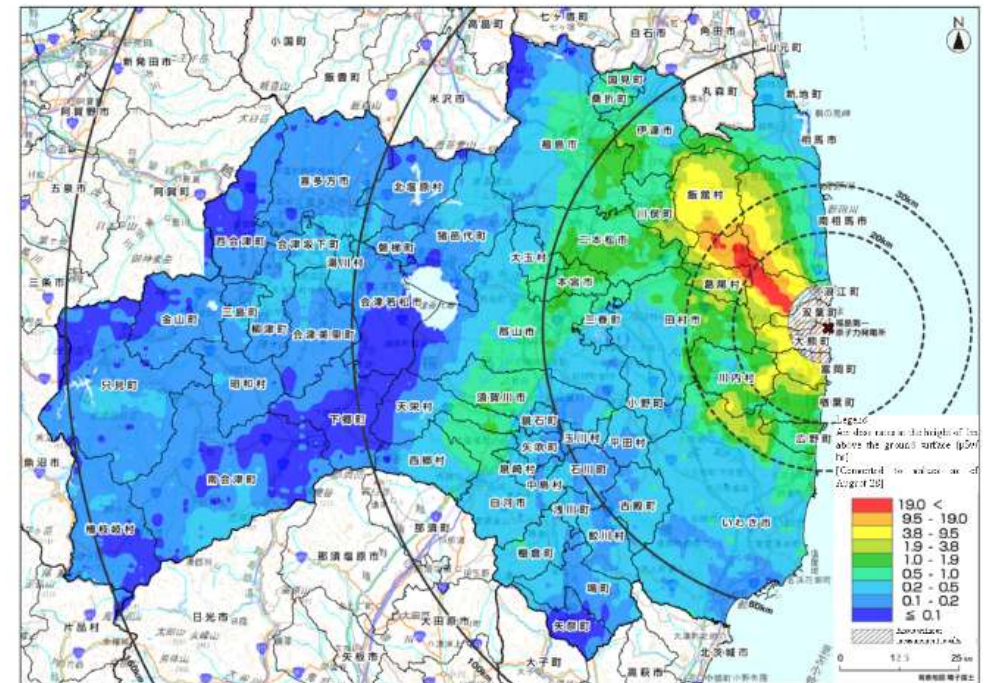
「部会まとめ」の根拠となるデータは鈴木部会長の論文(2022 年)(**部会長本人表明**)
鈴木論文はJAEA**寺田論文(2020)**の大気拡散シミュレーションに全面的に依
拠。寺田論文をUNSCEARは補正して採用し、**鈴木論文は補正なしで採用**

鈴木元線量: 寺田2020UNSCEAR2021 A-9.I.
I-131の時間積分濃度



寺田論文のシミュレーションは
中通りを襲った放射性プルームをとらえ損なっていて甲状腺等価線量は大幅な過小評価である。寺田論文のシミュレーションだと福島市、郡山市より千葉県の銚子市の方が線量が高いことになる。

文科省報道発表2011.9.11 地上1mの空間線量率
https://radioactivity.nra.go.jp/cont/en/results/land/airborne/results/1270_0912_2.pdf

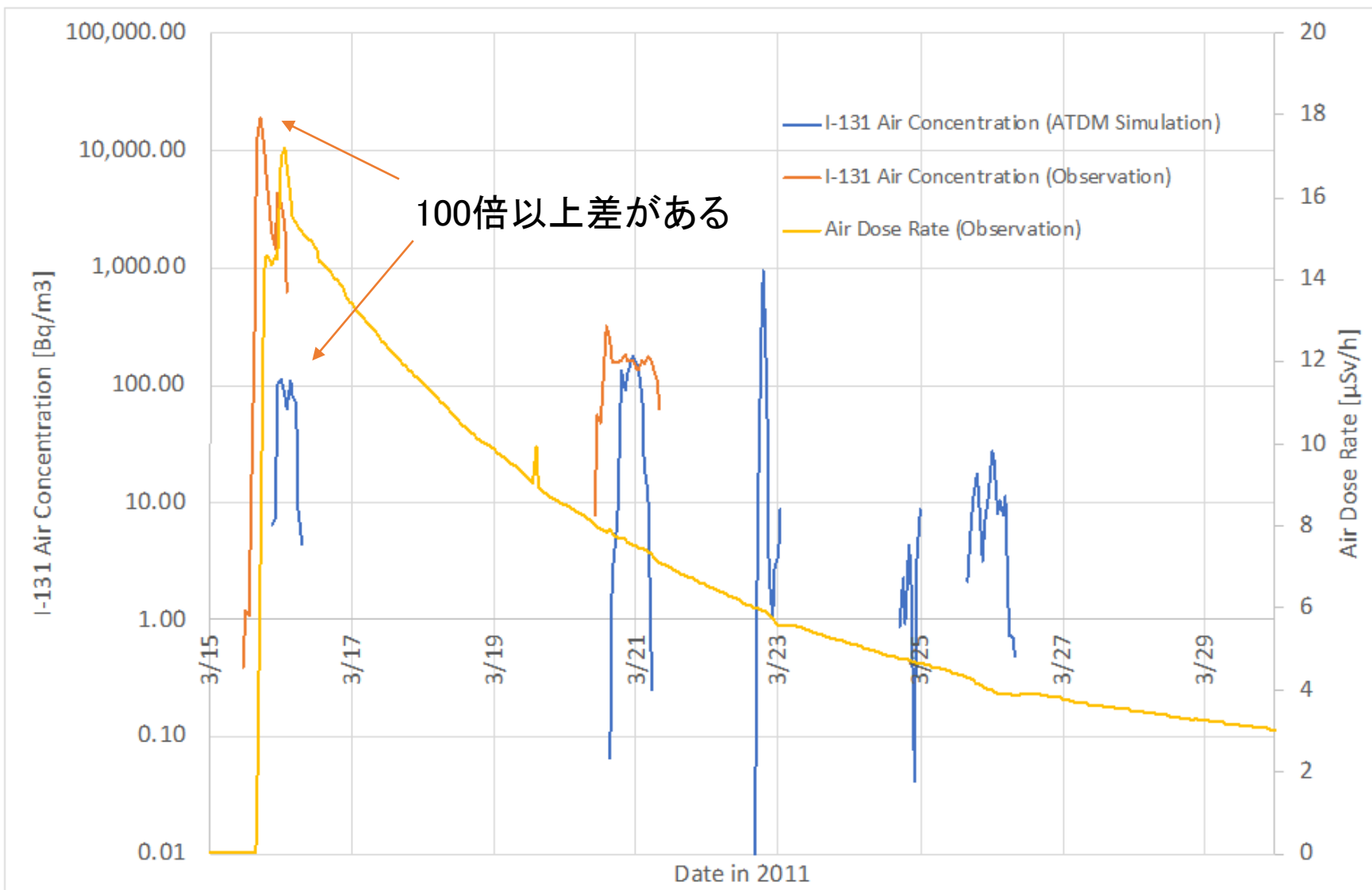


4地域の汚染の順位

文科省測定: 避難区域>中通り>浜通り>会津

鈴木元線量: 浜通り>>避難区域>中通り>会津

黒川眞一氏（高エネルギー加速器研究機構名誉教授）2025年6月30日福島県庁記者クラブでの発表より



2011年3月の福島市中心部における寺田2020論文が示すヨウ素131の大気中濃度（青）と平山論文が示すヨウ素131の大気中濃度（赤）の時間変化

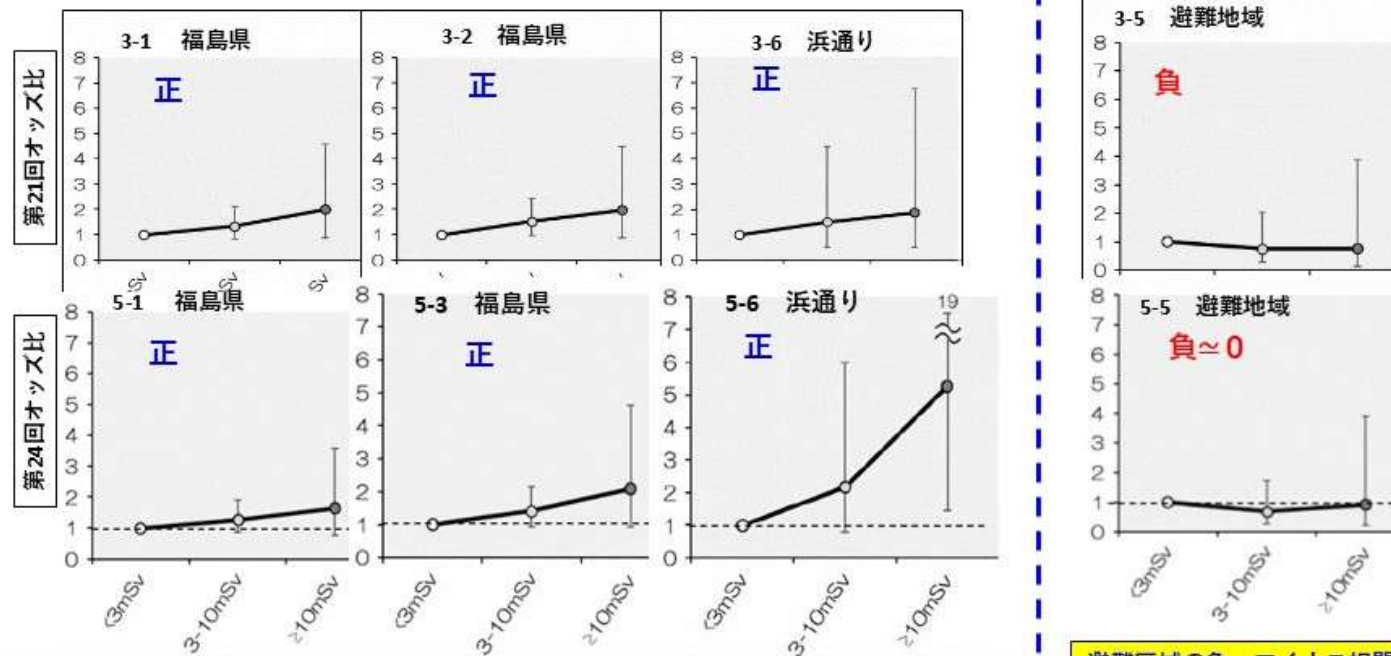
横軸：日時
縦軸：大気中濃度（Bq/m3） 対数目盛

黒川眞一氏作成

3. 全データを使った症例対照研究が線量・効果関係を示しているのに、 2地域に分かれて避難した避難地域のデータに依拠して線量・効果を否定

鈴木元一医大線量による症例対象研究 第21回24回評価部会 2023.2025年

被ばく線量の増加に応じて発見率が上昇する関係（線量・効果関係）を示す



福島県全体・浜通りでは甲状腺線量が増えると甲状腺がん発生率が増える
一貫した関係（線量・効果関係）が認められる

避難区域の負・マイナス相関
鈴木元一医大の線量評価の誤り

医大：評価部会：検討委結論甲状腺がんと放射線被ばくの間の関係は認められない

避難地域のみが線量・効果関係を満たさないという理由で、それ以外はすべて線量効果関係を示しているのに、それを否定し、「甲状腺がん」と放射線被ばくの間に関連があるとは認められなかった」と結論づけるのはおかしくないか？？

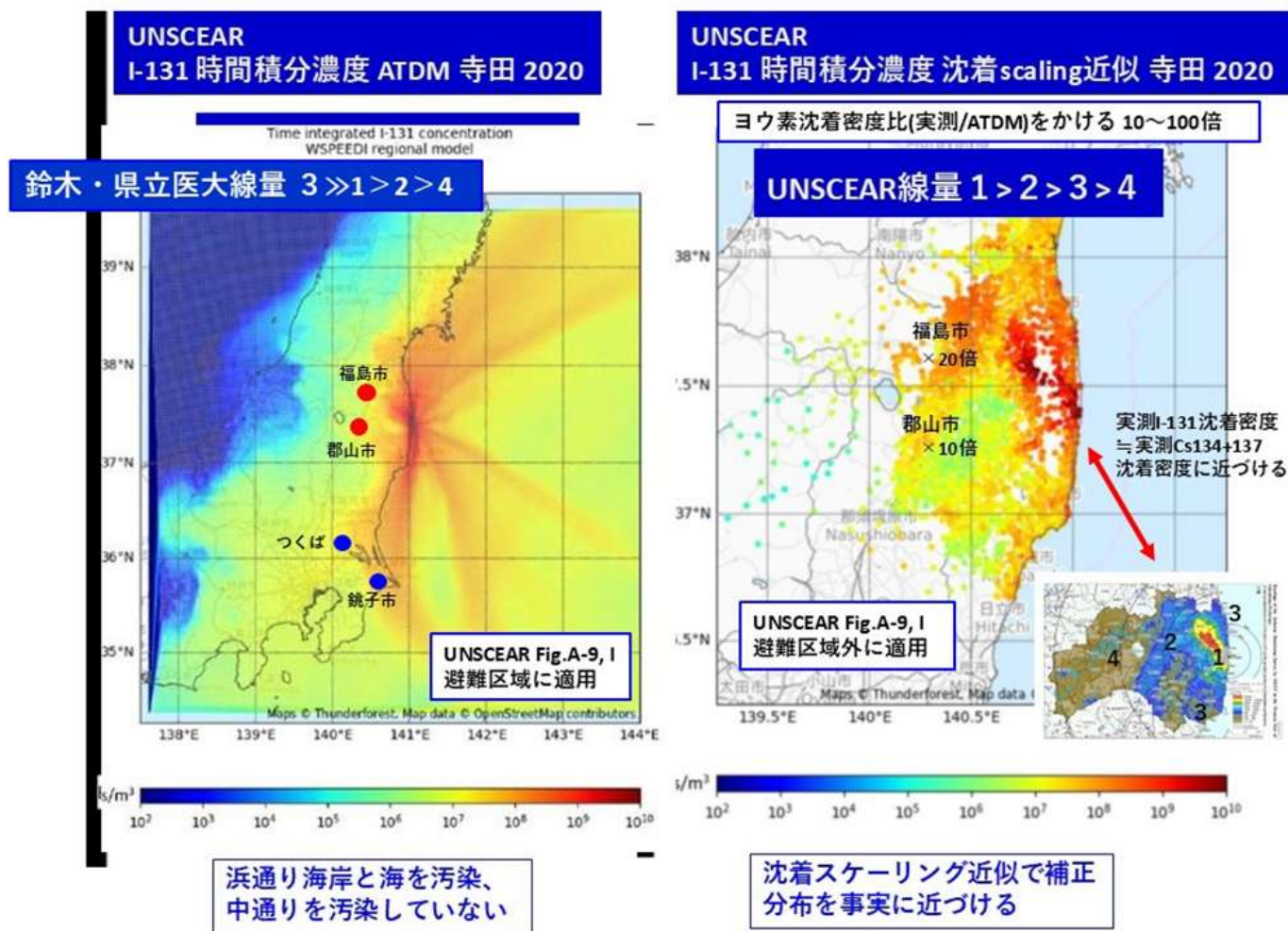
「部会まとめ」は中通りを襲った3/15～16の放射性プルームの影響を無視した鈴木論文に基づいており、誤りである。

私たちは「部会まとめ」の根拠となるデータとして福島県下の全市町村の甲状腺等価線量をどう見積もったのか公開を求めましたが公開されず、鈴木元・評価部会部会長の論文(2022)で公開されているとの回答を受け取りました。

しかし、この論文は3月15～16日の最大のプルームが通過した中通り地区の線量のデータを考慮していません。これは鈴木論文が依拠している寺田論文(2020)が、3月15～16日の中通りを襲った放射性プルームの存在をとらえ損なったシミュレーション(ATDM)にもとづいて計算されているためです。

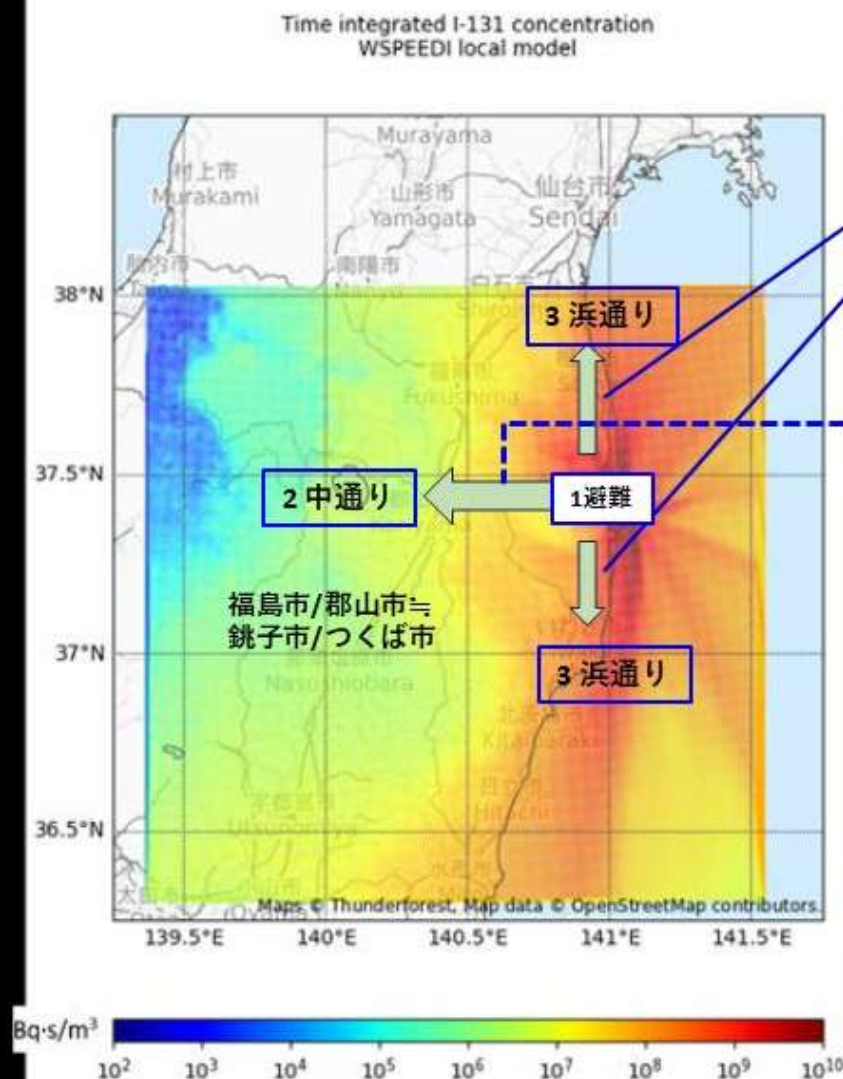
私たちは「部会まとめ」がこのプルームの存在を無視することで、中通り地域の放射線被ばくを過小評価し、その結果避難地域の人々の甲状腺等価線量を引き下げ、結果として線量とがんの正の相関が見えなくされたと判断せざるを得ません。

線量過小評価の著しいUNSCEARレポート(2020/2021)でさえ補正したのに、プルーム(放射性ヨウ素)の影響を全く考慮しない鈴木元部会長の甲状腺等価線量の推定



加藤聡子氏作成資料より

症例対照研究: 避難区域は中通りを汚染しない鈴木元甲状腺線量に対してマイナス相関を示す



避難区域 寺田2020 ATDM

避難区域 ⇒ いわき市・相馬市
実際は低線量で甲状腺がん少ない
鈴木線量: 高い 甲状腺がん少ない

避難区域 ⇒ 中通り
実際は高線量で甲状腺がん多い
鈴木線量: 低い 甲状腺がん多い

マイナス相関

地域	甲状腺等価線量 Median(Q1-Q3) mSv	
	症例群	対照群
1.避難区域	2.65(2.07-4.17)	2.81(1.75-4.74)
3.浜通り	6.88(3.43-9.62)	4.26(1.86-7.03)

中通りまでいくと大気中の空気からの吸入線量は非常に低くなっています。誤差が10倍あろうとあまり大きな問題にはならないです。鈴木元氏

参考 2. チェルノブイリ(事故5年後検査開始・検査対象者5歳以下が8割)と福島(半年後検査開始・検査対象者18歳以下)との不適切な比較に基づく放射線起因否定

- 「部会まとめ」は「**チェルノブイリ原発事故では事故後4～5年後に小児甲状腺がんが発生し始め、10年後には10倍以上に増加したことを踏まえ、検査4回目までのまとめにおいて「原発事故当時乳幼児であった世代の状況を見守る必要がある」としたが、震災時年齢階級別に累積発見率を確認した結果、震災時4歳以下の世代の累積発見率の上昇はしておらず、チェルノブイリ原発事故のような放射線被ばくに起因した傾向とは異なることが確認できた。」**としている。



- しかし、チェルノブイリでは甲状腺エコー検査は事故5年後に開始され、検査対象者は5歳以下が8割を占めていたこと、福島では、検査開始が事故半年後であり、検査対象者も18歳以下であったことを考えると、**チェルノブイリとの数字の比較で、福島の甲状腺がんが放射線の影響ではないとする根拠は全く成り立ちません。**

7月25日の第56回検討委員会の議論、特に委員の感想と座長のまとめに再度注目を

- 記者会見での委員の発言

「部会報告自体には異論はない。ただ元となるデータが正しいかどうかは私たちにはわからない」

- 重富座長の委員会及び記者会見での発言

「ここで部会まとめを承認するとかしないはない」

「まとめは放射線と関係がないとは言っていない」

「専門の異なる様々な意見を県に届けるのが検討委員会の役割」

→ 「部会まとめ」は放射線の影響ではないと結論づけた訳でなく、様々な議論を県に届け、最終判断は県(知事)に委ねる、としたのが今期の検討委員会の結論である。

福島県と政府に放射線被曝影響を認めさせるために皆様の協力をお願いするとともに、被害者補償の実現に向け共に闘いましょう。

「先行検査から検査5回目までの評価部会まとめ」に関して「症例対照研究」結果の根拠データの公開を求め、福島県立医科大に再度公文書開始請求を行ないました。

- ・ 9月16日 福島県立医科大に対する公文書開示請求

グラフ作成に使った甲状腺等価線量のデータの公開(2025年7月25日の第56回検討委員会で配布された資料5-2「甲状腺検査先行検査から本格検査(検査5回目)までの結果に対する部会まとめ」の⑤-133「マッチングモデル2 [避難地域限定]」のグラフの作成に利用した甲状腺等価線量の計算方法とデータ)

- ・ 同 10月3日 データ公開に関する県立医大・非開示決定

不開示の理由: 個人に関する情報であって、特定の個人を識別することができるもの(他の情報と照合することにより、特定の個人を識別することができる こととなるものを含む。)又は特定の個人を識別することはできないが、公にすることにより、なお個人の権利利益を害するおそれがあるものに 該当し、同号ただし書きのいずれにも該当しないため。 → 今後も市民が納得できる根拠を市民に示すべきだという観点から開示を求めていく

★今後、放射線の影響であることはこれまでの経緯からも明らかなので、この事実を検討委員会、評価部会、知事をが認め、被害補償、被害拡大防止の措置を取るように署名活動も含めた運動を進めて行きたいと思います。

資料公開

- 甲状腺検査評価部会における分析と「まとめ(案)」等への公開
質問（放射線防護の民主化フォーラム・濱岡豊）

<https://drive.google.com/file/d/1-V9OaJdxXlc4ogyNdIUvYgXSx8WKHKSg/view>

- 明らかにする会の「部会まとめ」一連の活動

<http://natureflow.web.fc2.com/HP/index.html>